

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第2号		



福は内！ 鬼も内！

節分の日、鬼の館で一風変わった豆まきが行われました。

この豆まきは、岩崎鬼剣舞保存会が鬼の館の誕生を祝って催したもので、鬼剣舞の衣装をつけた保育園児や鬼の面作りに参加した小学生など岩崎地区の皆さんが集まって楽しく愉快的な豆まきとなりました。

鬼の館行く年・来る年

昨年6月1日に開館してから、はや10ヶ月を過ぎようとしています。雪深い当館にとって冬場の時間は緩やかに流れるようで春先の慌ただしさが、遙か昔のこのように思えてなつかしい。

くぎりの季節を無事に迎えることが出来た安堵感からか、最近訪れる人たちが、じっくりと丁寧に見学しているように、こころなしか感じられる今日このごろです。

ふりかえってみれば、4月、5月の目標は、とにかく6月1日にオープン出来ること。なにしろ、博物館の開館準備に携わったことがあるのは、館長が岩手県立博物館時代に唯一経験しているだけで、いわば暗中模索の状態でした。勢い、開館に間にあうのだろうか？来館者はあるのだろうか？展示の意図がうまく伝わるのだろうか？などと日に日に不安が募るばかりで、とにかくにも予定どおりに開館にこぎつけ、順調に入館者を数えることが出来たときには、ホッと一息、あの晩（館内職員旅行で繋温泉に宿泊）の盃が妙に軽かったのを今でも記憶しています。

さて、だいぶ前のことですが、わずか数分で展示室を回り、ぜんぜんつまらなかったと、吐き捨てるように言って立ち去った見学者がいました。

鬼の館といっても歴とした博物館なのですから、興味本意の人には、そうそう受け入れられるものではないことは覚悟していましたが、現実のものになってみると、余りにも情けない。名前のせいで、遊園地の化物屋敷と勘違いして過剰な期待感を持って訪れる場合でしょうか。

当館の方針として、視覚に訴える展示にするため解説文字パネルを極力少なくしていますが、それを補完するのに見学者は、備付けの展示解説シートを自由に取って読みながら見学できるようになっています。これを、読まない人には展示の意図が十分に伝わらなかったようでした。

そこで、団体の入館者の場合には出来るかぎり職員がガイドを行うように努めているのですが、すべてに対応するのは到底不可能であり、来る年には常

設展示図録などにより、少しでもこれを補うことにしています。

しかし、当館の開館は、落胆することよりも遙かに大きな収穫がありました。多くの入館者が、熱心に展示室を見学して、それぞれ鬼についての新しい発見を探し出しているようで、たびたび、質問を受けることに感じられました。

そして、なによりも有り難いことには、地元住民や講座の受講者、行事の参加者などに親しみを持っていただけたということです。

当館の所在地・岩崎は、国指定重要無形文化財「鬼剣舞」の発祥の地。もともと鬼には住みやすい土地柄でしたが、岩崎鬼剣舞保存会を中心に、地元自治会や小学校、保育園児までこれほど熱心にバックアップしていただけるとは予想もしていませんでした。当館の最も誇れる側面です。

これをよく表しているのが、福鬼節分会。この行事は、もちろん節分行事ですが、ご祭しのとおり鬼を追いだすような単なる豆まきではありません。鬼の強大な力をもって悪魔を退散させるため、鬼たちが福豆をまくという趣向です。

鬼に扮するのは、鬼剣舞保存会の踊り手のほか当館が先に行った子供向けの教室「鬼のお面をつくろう」で面を創作した子供たちや保育園のかわいらして鬼剣舞の踊り手たち。福豆を拾った人には景品までつくというサービスぶりで、これの費用や準備の一切を地元で取り仕切っていただきました。この力は、今後当館を運営していくための大きな原動力となることと期待しています。

来年度の鬼の館では、毎月第4日曜日には、鬼剣舞公演を行うほか、「中国の仮面写真展」・「岩手の河童たち」の企画展が2回。鬼学講座や鬼っこわんぱく講座など一般向け、子供向けの教室普及事業。鬼と関わりをもってまちづくりを進めている市町村が集う「全国鬼サミット」の開催やこれに連動したシンポジウムなど、盛り沢山の企画です。

是非御来館をお待ちいたしています。

(主査 菊池和俊)

平成7年度事業計画

企画展
「中国の仮面写真展」
8月6日～9月10日

企画展
「岩手の河童たち」
10月15日～11月26日

月	常設展示	企画展示	講座・教室	鬼の館芸能公演	関連事業		
4月	鬼の原像を探る	3/23(木) ↓ 23(日) 平成6年度 新収集資料展	鬼学講座(5回講座制) 対象・一般市民 定員・30名	23(日) 鬼柳鬼剣舞			
5月							
6月			鬼っこわんぱく講座 ・絵本づくり 親子15組 ・昔ばなし 幼児～一般 ・面づくり 小学生30名	28(日) 口内鬼剣舞	30(火) ↓ 大乗神楽権現様展		
7月			9(日) 23(日) 鬼っこわんぱく講座 (鬼の絵本づくり) ↓ 30(日)	25(日) 二子鬼剣舞	4(日) 第2回北上市 大乗神楽大会 主催:北上市大乗神楽 保存会連絡協議会 (鬼の館野外ステージにて)		
8月		6(日) ↓ 中国の仮面写真展	27(日) 鬼学講座①	23(日) 赤沢鑑剣舞 (大船渡市)	8(火) 全国鬼サミット in 北上 9(水) 鬼シンポジウム (サミット関連)		
9月		10(日)	23(土)～24(日) 鬼学講座②	23(土) 道地ひな子剣舞			
10月		15(日) ↓ 岩手の河童たち	8(日) 鬼学講座③ 14(日) 鬼っこわんぱく講座 鬼の昔話をさく 22(日) 鬼学講座④	22(日) 岩崎鬼剣舞			
11月		26(日)	19(日) 鬼学講座⑤	26(日) 飯豊鬼剣舞			
休館日			27(月)～30(木)		(館内整理日)		
12月		休館日			12/28(木)～1/4(木)		
1月				21(日) 鬼っこわんぱく講座 (鬼の面づくり)			
2月				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><i>Information</i></p> <p>各講座の申込方法等については、広報きたかみ、鬼の館瓦版等によってお知らせします。なお、くわしくは鬼の館にお問い合わせください。 北上市立鬼の館 0197-73-8488</p> </div>		3(土) 福豆節分会 主催:未定 (鬼の館野外ステージにて)	
3月	17(日) 平成7年度 新収集資料展 ↓ 4/21(日)						

※都合により内容・日程が変更になることがあります。お出かけ前にお確かめ下さい。



鬼の館では、このほど秋田県河辺郡雄和町沖村で行われているナマハゲ行事を調査する機会がありました。

「ナマハゲ」は、年の変わり目に里びとを訪ね来る異形の神で、秋田県の男鹿半島のナマハゲがよく知られていますが、実は同様の行事が、岩手県の南三陸から青森県の沿岸さらに新潟県の海沿いまで分布していることがわかっています。

ナマハゲの面は、今はほとんどが木彫り面ですが、秋田県に藁製の面を作る地域があると聞き、鬼の館の設立からお世話をいただいている秋田県立博物館の嶋田忠一先生にご案内をいただいて、今回、調査をおこなうことになりました。

沖村にナマハゲがやって来るのは、1月15日の晩ですが、行事に先立って、数日前から衣装づくりなど準備が始まります。各家庭には自治公民館から案内が配布されます。今年は、不幸があった2軒を除く44軒を訪れることになっています。

沖村のナマハゲ面は、「さんだわら 棧俵」すなわち米俵のふたで作られます。秋田で「サンダラボッチ」と呼ばれている棧俵は、現在作る人が少なくなり、胴に巻く衣装を作るための藁も、取り入れの機械化によって入手が難しくなってきた、世話人の方々の苦勞が多いようすでした。

面は、棧俵の中央にぐると藁を2～3本づつ立ちあげ荒縄で巻いて鼻を作り出します。

次に刃物を入れて口をつけ、顎を荒縄で巻きます。さらに藁を寄せて目を作ると、いよいよ「異形」の相の出来上がりです。

嶋田先生によると、「かつてナマハゲの姿には、棧俵の面や顔を黒く塗ったりするなど様々な姿があって、徐々に消えてしまった」ということですから、沖村のナマハゲは、かつてのありさまを保っているとも言えます。

ナマハゲ役を務めるのは、地域の若者たちで、例年、3組6人のナマハゲが沖村の家々を回ります。夕方、2kmほどはなれた本田の八幡神社で付き添い人とともにお疲れを受け、公民館にもどってからあらためて訪問の時を待ちます。

訪問は、赤・青のナマハゲと付き添い人1人、供物やご祝儀を預かる大きな袋を担ぐ人1人の合計4人が一組となり、付き添い人が玄関先で来訪を告げるとやおら「うおーっ」と声をあげてナマハゲが茶の間になだれこみます。ちょうど夕餉時、和やかな雰囲気が一変して小さな子はお父さんやお母さんにしがみつきます。中には逆に、ナマハゲをからかったりするおませさんのちびっ子もいて、若いナマハゲさんがひるむ場面もありましたが、大人は、おおむねこの来訪者を笑顔で迎え、餅や酒、金包みを渡して送り出すのでした。

この行事は、子どもたちへの戒めと家内安全を願って行われるものと言われ、「泣く子どもはいねえか」と大きな声で叫ぶのもそのためだということでした。

沖村のナマハゲは、かつての姿を3年ほど前に復元して行われるようになったのだそうです。この復

ナマハゲ誕生



1. 棧俵を使っての面づくり



2. 「ツノ」をつけます

元は、生活に欠かす事のできない素材であった藁と、棧俵やミノ・ケラといった生産・生活用具を作り出す技術があってのこと。そして、ナマハゲが、いわゆる鬼形に象^{かたど}られるだけではないこと、本来、正体のよくわからない存在を異様な姿として表したものであることが見て取れます。

この行事は、秋田県立博物館学芸員の高橋 正さんが、雄和町史に掲載されている棧俵のナマハゲ写真のコピーを手に、丹念に雄物川^{おものがわ}周辺を歩かれた結果行き当たる事ができたものだそうです。また、沖村自治公民館からはこのナマハゲ面の寄贈のお申出をいただき、ほんとうにうれしく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。大切に保存し、役立てたいと思います。

生まれたばかりの鬼の館は、こうしたご好意に恵まれて資料を蓄積してゆくことができます。

沖村のみなさん、特に今回の面制作の宿となった深井 稔さんにはお世話になりました。ありがとうございました。 (専任研究員 千葉淳子)



3. 面のかぶりあんばいは?



4. いよいよ衣装をつけて

新資料から
1

下甕島(鹿児島県)
トシドン面



トシドンは、大晦日の晩に、甕島を訪れる来訪神です。甕島は、鹿児島県の薩摩半島の西、東シナ海に浮かぶ島で、6つの地区でこの行事が行われています。今回寄贈されたトシドン面は、本町地区のもので、しゅろの髪や髭、長く尖った鼻が特徴です。

甕島の小さな子どもたちにとってトシドンは、ちょっぴり怖い存在です。しかし、正直な良い子にはお正月のお餅を下さり、すこやかな成長を見守ってくれるありがたい存在です。



5. ナマハゲ様のでき上がり

6. お祓いをすませたナマハゲは、各家庭を訪問します。

鬼学ノート

節分考

石川貴洋

1. はじめに

今年も2月3日には、各地で節分の豆まきの行事が行われ、お寺や神社、また各家庭で「鬼は外、福は内」の声が聞こえました。鬼は目に見えないものですが、豆をまくときには鬼が目に見えた方がいいわけで、鬼の面をつけたり鬼の衣装を着て、それにめがけて豆をまくというのが分かりやすいものです。

この節分の豆まきを考える前に、節分そのものの意味を知ることが必要になります。

2. 節分の由来

節分とは、季節の移り変わるときという意味で、本来は、立春、立夏、立秋、立冬に移るときで、すなわち一年に4回ありました。ところが今は立春の前日だけを節分と考えるようになりました。これは一年の区切りを立春を境として考えていたためで、一年の終りの日として特に意識されていきました。別名「年越し」とも言われるのは大晦日と同じ意味を持っていたためです。

かつては生活の周期は「月」を目安にして営まれている太陰太陽暦で読まれていました。日本に太陰太陽暦が伝えられたのは6世紀中ごろであるとされています。太陰太陽暦では立春を年の変わり目としていたため、立春の前日である節分が大晦日にあたる日であったわけです。ただし、太陰太陽暦では19年間で7回の閏月を設けていて、12月が閏月にあたる場合は、年を越す前に立春が訪れることがありました。「古今集」巻1・1・在原元方の歌に「年のうちに春は来にけり 一年を去年とやいはむ 今年とやいはむ」とありこのことをさしたものです。節分を一年の終りとし、この一年の悪鬼、疫癘を払い新年を迎えるという考えが生まれてきます。ここで節分と追儺とが結びつくことになります。

追儺は、もとは中国の宮廷行事のひとつで、大晦日に行われる新年を迎える儀式でした。大晦日を除

夜といいますが、これは「逐除」を行う日という意味で、逐除とは疫癘の鬼を払うこと、つまり儺（追儺）のことでした。この儺は、農耕を営む上で生活の節目に行われるもので年に数回行われていましたが、中でも季冬、つまり冬から春に移る時に行うのが最も盛大で、しだいに他はここに吸収されていきました。

儺の中心となるのは「方相氏」と呼ばれる者で、4つの黄金の目をもつ仮面をつけ、熊の皮をかぶり、赤い衣装をつけ、手に矛や盾をもって目に見えない悪鬼を追い払いました。

わが国でも宮中で追儺が行われ、方相氏が見えない悪鬼を追い払いました。後にこの方相氏が鬼と混同され追い出されることになります。

この追儺は、仏教で行われる一年に一度の法会である修正会や修二会でも行われますが、もともと宮中の行事であったものが仏教の行事として取り入れられ、さらに民間に伝わり節分になっていったと考えられます。

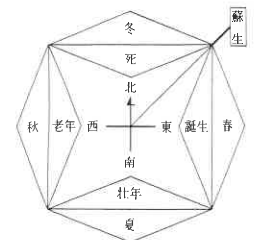
また、豆をまくことについては、豆には呪力があり、穢や病気を払うとされていたためと考えられます。

3. 節分の鬼

節分や追儺には、目に見える見えないに関わらず鬼が登場します。このことは、古代中国の思想陰陽五行説に大きな関係があったと考えられます。陰陽五行説は、ものごとを陰と陽あるいは五行という考え方でとらえるもので、東西南北の方角、春夏秋冬の季節（時間の流れ）、誕生から死までの生命活動を右図のように関係づけています。春に誕生した生命は、成長し古い冬に死を迎え、また春になり蘇生するのです。

古代の中国では、世界が四角い大地からできていて、その四隅には世界の果てである門が建っていると考えられていました。東北に建つ門は鬼や妖怪、死霊などが出入りするとととされて「鬼門」と呼ばれていました。

図のように東北の方角は、冬と春の節目にあたり、死と誕生の接点、



すなわち「よみがえり」の時にあたります。この東北の方角にある門「鬼門」からは福の神ばかりでなく、人間に災いをもたらす悪鬼や死霊などが訪れると考えられました。ですから節分に東北の方角からやってくる鬼を払い、新しい年を迎えるということが行われるのです。

節分には豆をまいて悪鬼を払うというのが一般的ですが、その他に鯛いわしの頭をヒイラギの枝に刺して家の門に挿すということも行われます。これは「ヤイカガシ」といい、悪鬼の嫌う鯛の悪臭と、古くから魔除けの力をもつといわれたヒイラギによって鬼が来るのを防ぐものです。

このことに関しては、「鬼の子小綱」という昔話にその原型が見られるように思います。この話は、鬼の嫁になった娘のところに爺が訪ねていき、娘の子供と3人で鬼のところから逃げてくるというものです。話の終りに、鬼の子が鬼の追跡を振り切るために自らの頭や手足を串に挿すくたがりがあります。最後の部分は地方によっては多少の違いがありますが、これは「ヤイカガシ」の原型になるものと考えられます。

また、地方によっては「オニオドシ」と呼ばれる風習があります。これは、長い竹竿の先に目籠めかごといわれる竹で作った目のあらい籠を吊って庭先などに立て飾るもので、北上市の立花地区や福島県では、「コト八日」と称して2月8日に目籠を吊す風習が見られました。これは鬼が自分よりたくさん目をもったものを恐れると考えられたためです。追儺にでてくる方相氏の目が4つであるのも同様に考えることができます。

4. 鬼は内

節分の際には「鬼は外、福は内」というのが一般的ですが、中には鬼を招き入れる所もあります。

吉野地方や熊野地方などに多く見られますが、これは、修験道の祖である役小角えんのおづの せんきが前鬼・後鬼を従えて善鬼として山中に住ませたということと関係してその鬼の後裔こうえいを名乗るという家がそうしています。

岩手県の民話「節分の鬼」は節分の夜に一人暮しのおじいさんがさびしさのあまり、やけになって「鬼は内、福は外」とあべこべに叫んだところ、他の家を追われた鬼達がやってきて、その晩にぎやか

にすごしたという話です。

一般的な鬼のイメージからは考えられないことですが、鬼は怖いだけでなく、このような「招かれる鬼」もいたわけです。

「招かれる鬼」は、男鹿半島のナマハゲなどがよく知られています。大晦日の晩に男鹿の真山・本山から笠をかぶり藁を着て、鬼の面をつけ包丁や手桶を持ち、奇声を発して下りてきて家々を訪れます。ナマハゲの語源は、いろりの火にあたりすぎるとできる火斑かはんを「ナモミ」というところから、ナモミを剥ぐということからきています。そしてナモミができていたような怠け者に訓戒を下します。また、ナマハゲは鬼の姿をして山から下ってくる年神(祖霊)であり、新しい年を持ってくるものと考えられます。

民俗学者の折口信夫おりぐちのぶはナマハゲについて「春来る鬼」としていますが、山形県遊佐地方のアマハゲ、岩手県気仙地方のスネカ、閉伊地方のナモミ、鹿児島県下甕島しもこしまじまのトシドン、沖縄県宮古島のパーントゥなど日本各地にある来訪神らいほうしんも「春来る鬼」にあたります。

また、修正会にでてくる鬼があります。修正会は、仏教寺院で旧正月に行われる天下泰平、五穀豊穰などを祈願する法会です。平安時代に諸国の国分寺で行われました。修正会に鬼がでてくるものを特に修しゆ正しょう鬼おに会えといい、大分県国東半島の成仏寺、岩戸寺、天念寺てんねんじの三ヶ寺で行われています。成仏寺・岩戸寺の鬼は、人々にこの年の幸福をもたらすために家々を訪れ、天念寺の鬼は、講堂の中で松明で人々をたたき、この年の福を約束します。これらの鬼も、年の初めに福をもたらす来訪神と考えることができます。

5. 終りに

節分の豆をまくときには「年男」が豆をまきます。お寺や神社ではタレントや力士などが豆をまいたりしますが、過ぎ去る年の厄を払い、来る年の福を招くことに変わりはありません。

今現在、私達が行っている節分の行事は、年の変わり目には福の神や悪霊などがやってくるという民俗的な風習を取り入れ、中国の追儺の行事や仏教の追儺の行事から民間へと伝わっていったと思われます。そして招く招かざるはあるにしる、節分は人間と鬼とが接する時であるといえます。

(いしかわたかひろ・北上市立鬼の館学芸員)

事業日誌

- 11/2 鬼の館協議会
- 11/3 第5回鬼の館鬼剣舞公演
岩崎鬼剣舞
- 11/6 鬼学講座5回目
「追われる鬼・招かれる鬼」
講師：当館館長・門屋光昭
受講者 27人
鬼学講座閉講式
- 1/1 盛岡市内バス100台にステッ
- ～31 カーを張りPR
- 1/5 鬼の館瓦版発行
- 1/20 きたかみファンタジア展(～22日)
- 1/22 鬼の面をつくろう 参加小学生 28人
- 2/1 J Rの主要駅で市民憲章入り
～28 ポスターでPR
- 2/3 福鬼節分会
- 2/4 日本鬼ッズフェスティバル'95(～12日)
- 2/16 消防訓練
- 2/23 鬼の館協議会委員先進博物館視察
(花巻新渡戸記念館・萬鉄五郎記念美術館)
- 2/23 鬼の館協議会
- 3/23 新収集資料展(～4/23)
- 3/30 鬼の館案内標識設置

● 新収集資料 ● (10月～3月)

	日付	名 称	数量	住 所・氏 名
寄贈	11/23	タルツム面	1個	花巻市高木12-10 安部俊雄
	12/15	剣舞こけし	1個	北上市川岸3-14-26 菅原信治
	1/22	京劇面	1個	花巻市高木12-10 安部俊雄
	1/22	民族面	2個	〃
	1/28	般若面	1個	花巻市高木2-13-1 高橋 佐
採集	10/11	トシドン面	1個	鹿児島県薩摩郡下甕村教育委員会
	11/20	横間虫追い人形	1組	岩手県二戸郡安代町 畠山亀五郎
	1/15	ナマハゲ面(タラ面)	1組	秋田県河辺郡雄和町 沖村自治公民館

(敬称略)

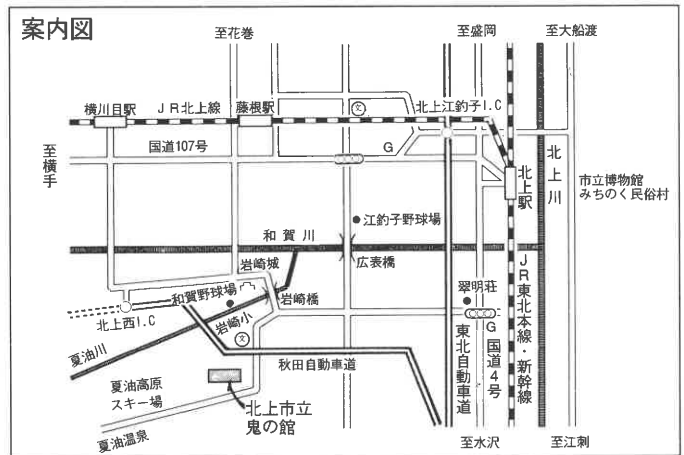
入館状況

H 6.11.1～H 7.3.31 開館日数 114日 単位：人

	小中学生	高校生	一 般	計
個 人	994	95	7,463	8,552
団 体	110	1	2,029	2,140
無 料	183	0	450	633
計	7,948	816	63,836	72,600

利用案内

- 開館時間** 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。
- 休 館 日** 毎週月曜日、国民の祝日の翌日、
年末年始(12月28日～1月4日)、
館内整理日(11月27日～30日)。
- 入 館 料** 一 般 300円 (250円)
高校生 200円 (150円)
小中学生 150円 (100円)
()内は20人以上の団体料金。
- なお、市内の学校の児童生徒が
学習活動で利用するとき、毎月
第2・4土曜日に利用する市内
の小中学生は入館料免除。



- 交通案内** ・JR北上駅よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
・JR北上駅より車で20分。
東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。

北上市立鬼の館だより

第2号 1995.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館
〒024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL・FAX 0197 (73) 8488